

4
エズラ
聖徒伝 198

神の所有として きよめられつつ

エズラ記9～10章

民の悔い改めと聖別

アウトライン

0. イントロダクション

I. 偶像礼拝者との雑婚 9章

II. 偶像礼拝者との決別 10章

III. まとめと適用

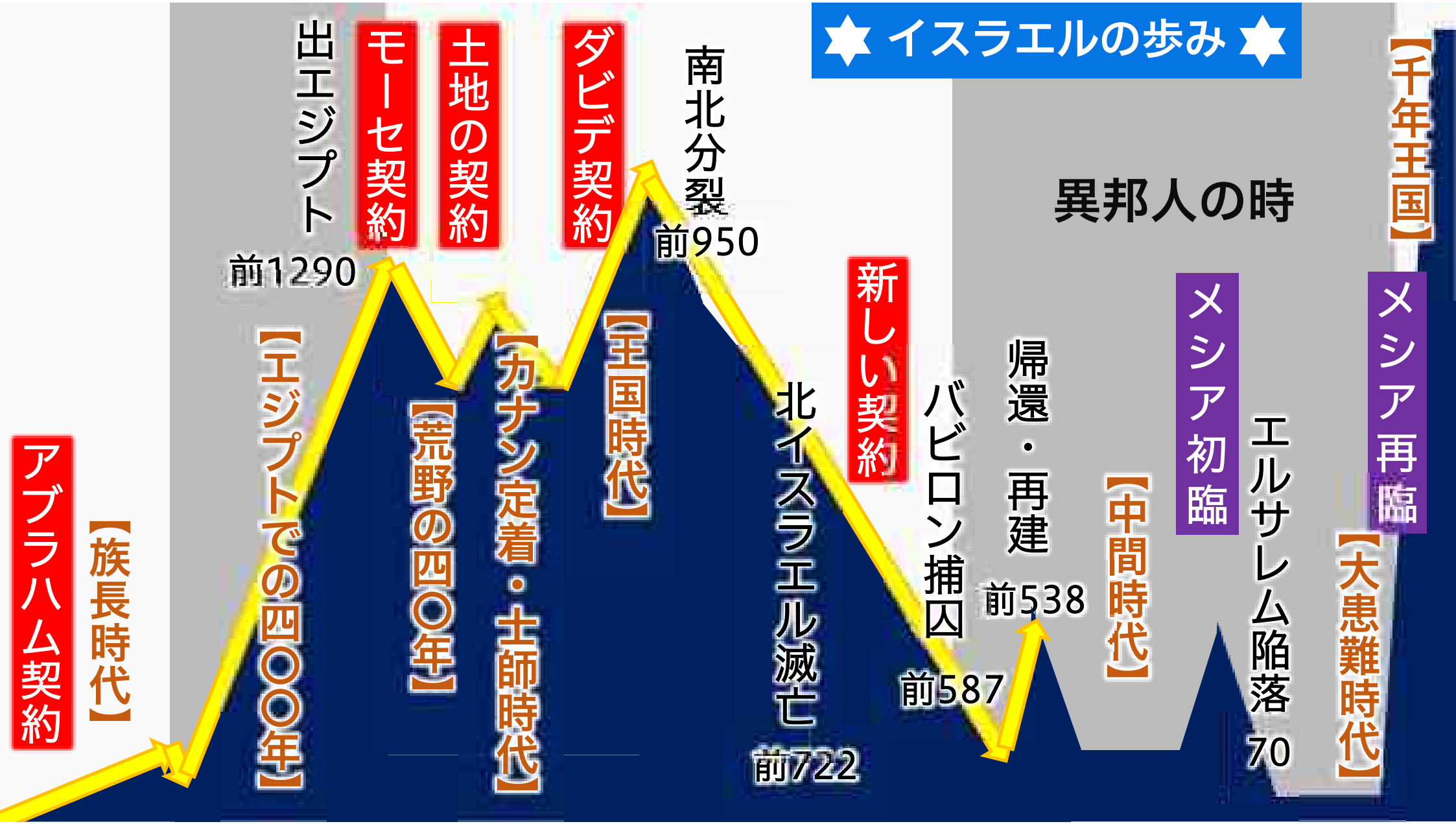
聖化の道を

生涯歩み続けよう



イスラエルの山地

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

モーセ契約

【荒野の四〇年】

土地の契約

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

南北分裂

北イスラエル滅亡

新しい契約

バビロン捕囚

帰還・再建

【中間時代】

エルサレム陥落

メシア初臨

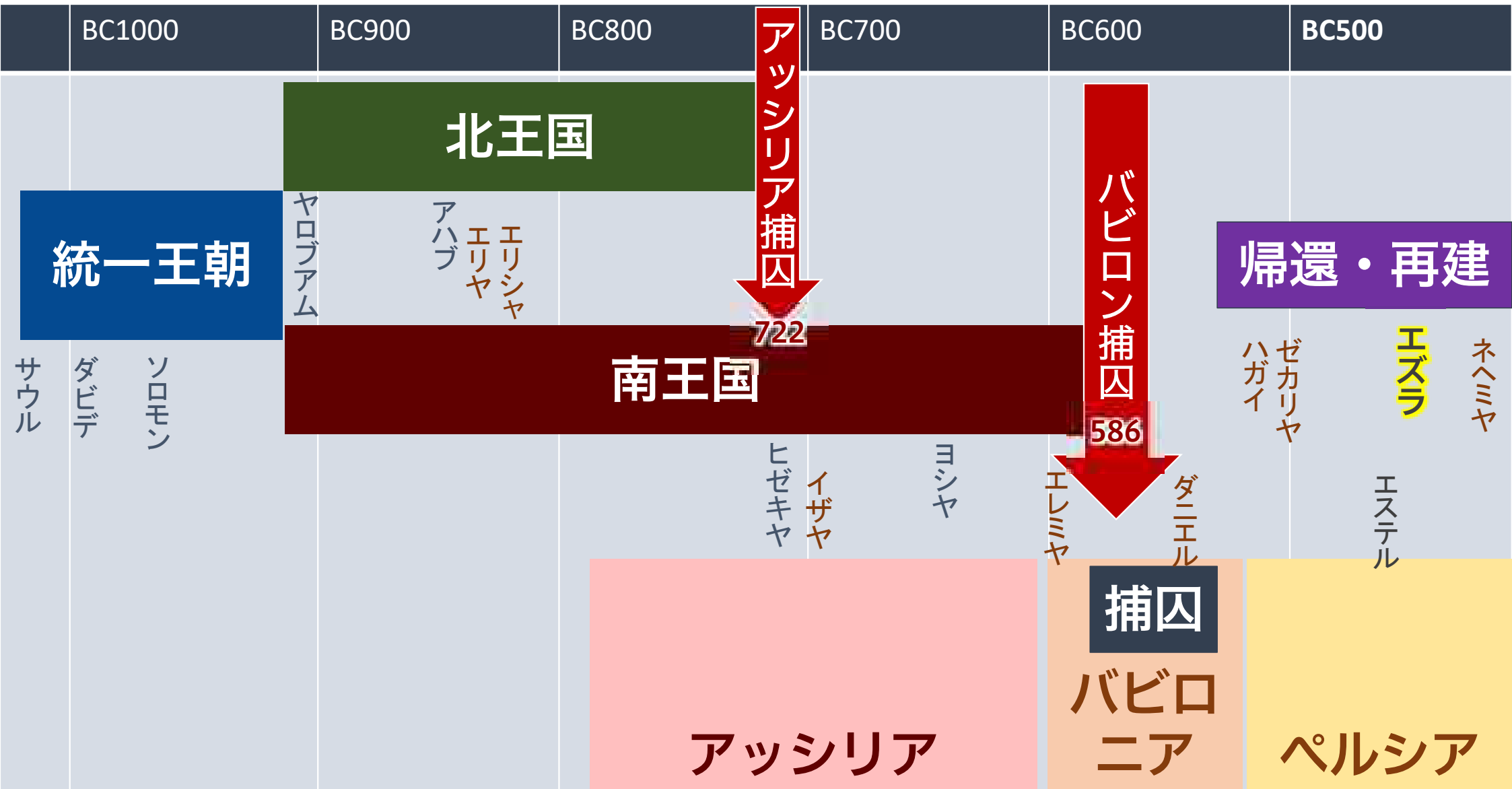
【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

イスラエル王国史



アケメネス朝 ペルシア

ニネベ
■

バビロン
■

ペルセポリス
■

エルサレム
■

エジプト



エズラ記の構成

1～6章	神殿の再建	1章	キュロス王の布告
		2章	帰還民の部族リスト・再建の開始
		3章	神殿建設・礎の敷設
		4章	妨害(15年間停止)
		5章	工事の再開
		6章	神殿の完成・奉獻
7～10章	信仰の再建	7章	エズラ の帰還
		8章	レビ人と祭司の再編
		9章	異邦人との雑婚問題
		10章	悔い改めと聖別



年代表 捕囚後の時代

年代	イスラエル	ペルシャ
前538年	約5万人が帰還 ゼルバベル	バビロン陥落 キュロス王の布告
前520年	ハガイ・ゼカリヤの帰還	ダレイオス王 第2年
前515年	神殿の完成	
前476年	マラキ?!	エステルがペルシャの王女に クセルクス王
前458年	エズラ のエルサレム到着 律法の確認・霊的覚醒	アルタクセルクス1世
前444年	ネヘミヤが帰還・城壁再建	

ゼカリヤ書

エズラ記



Ⅰ. 偶像礼拝者との雑婚

エズラ記9章

ペルセポリスの遺跡

告発 指導者たちの罪 エズラ9:1~2

これらのこと*が終わった後、指導者たちが私のところに近づいて来て次のように言った。

「イスラエルの民、祭司、レビ人は、カナン人、ヒッタイト人、ペリジ人、エブス人、アンモン人、モアブ人、エジプト人、アモリ人など異国の忌み嫌うべき習慣と縁を絶つことなく、かえって、彼らも息子たちも、これらの国々の娘を妻にし、聖なる種族がもろもろの地の民と混じり合ってしまった。しかも、指導者たち、代表者たちがこの不信の罪の張本人なのです。」

■ 帰還の礼拝後*に告発されたイスラエルの罪!!



律法が禁じていた偶像礼拝の民との雑婚

■ 申命記7:3～4

また、彼らと姻戚関係に入ってはならない。あなたの娘をその息子に嫁がせたり、その娘をあなたの息子の妻としたりしてはならない。

というのは、彼らはあなたの息子を私から引き離し、ほかの神々に仕えさせ、こうして【主】の怒りがあなたがたに向かって燃え上がって、あなたをただちに根絶やしにするからである。

■ 雑婚により、イスラエルが偶像礼拝に侵されることへの警告。

➔ ソロモンが政略結婚した妃たちが偶像を持ち込み、王国は分裂

➔ 最悪の王女イゼベルは、シドンのバアル礼拝者

律法が禁じていた偶像礼拝の民との雑婚

■ イスラエルの神を信じる異邦人(改宗者)との結婚は許されている。

→ エリコのラハブ、モアブのルツ …メシアの系譜を継ぐ女性

■ 帰還したイスラエルで問題になったのは、**偶像礼拝者との雑婚**。

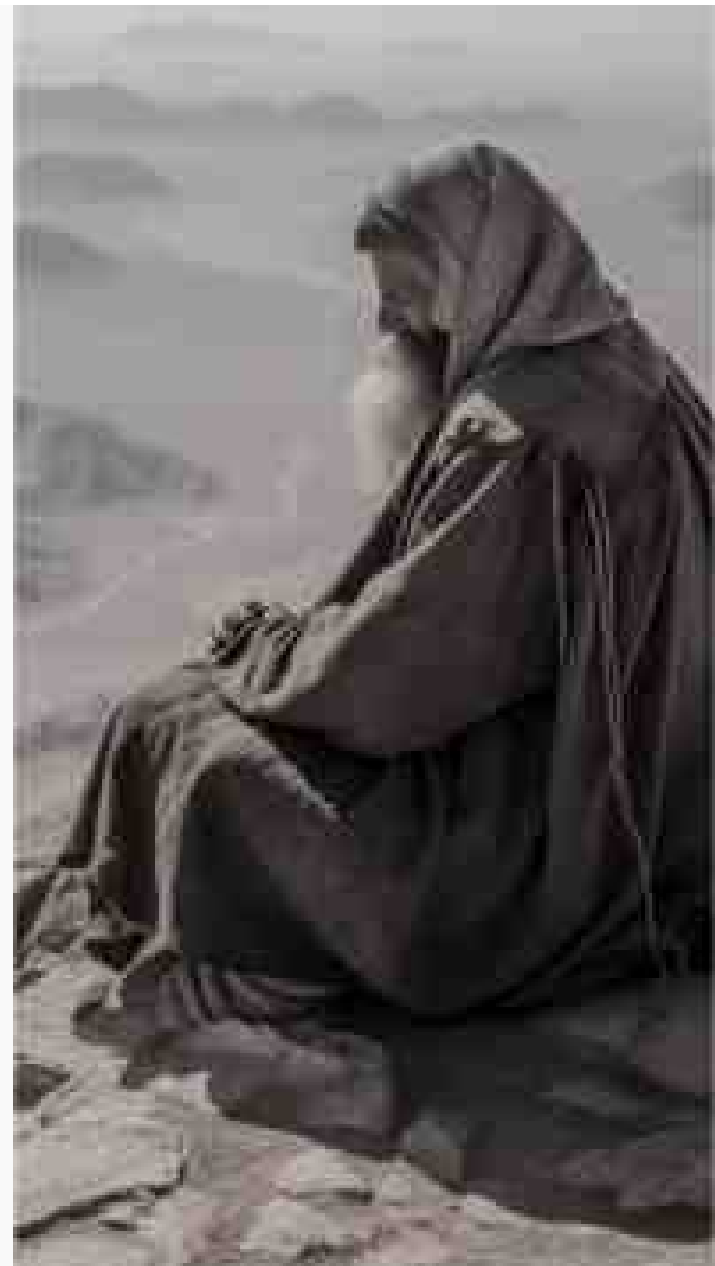
→ 再びイスラエルに滅びをもたらしかねない危機的な状況

嘆き 茫然とするエズラ エズラ9:3~4

私はこのことを聞いて、衣と上着を引き裂き、髪の毛とひげを引き抜き*、茫然として座り込んでしまった。

捕囚から帰って来た人々の不信の罪のことで、イスラエルの神のことばを恐れかしこむ者はみな、私のところに集まって来た。私は夕方のささげ物の時刻まで、茫然としてそこに座っていた。

*これ以上ない、嘆きと悲しみの表現



告白 とりなし エズラ9:5

夕方のささげ物の時刻になって、打ちのめされていた私は立ち上がり、衣と上着を引き裂いたまま、ひざまずき、自分の神、【主】に向かって手を伸べ広げて、こう言った。

「私の神よ。私は恥じています。私の神よ。私はあなたに向かって顔を上げることを恥ずかしく思います。私たちの咎は増し、私たちの頭より高くなり、私たちの罪過は大きく、天にまで達したからです。」

■ イスラエルの罪の赦しをとりなし祈る

祭司エズラの使命



告白 民族の罪過 エズラ9:7

私たちの先祖の時代から今日まで、私たちは大きな罪過の中にありました。私たちのその咎のため、私たちや、私たちの王、祭司たちは、諸国の王たちの手に渡され、剣にかけられ、捕虜にされ、かすめ奪われ、面目を失って、今日あるとおりです。

- 荒野の40年の放浪、士師時代の混沌、異邦人の多くの妻を娶ったソロモン、アッシリア捕囚、バビロン捕囚…。



バビロン捕囚

告白 憐れみの帰還 エズラ9:8

しかし今、しばらくの間、私たちの神、
【主】はそのあわれみによって、私たちに**逃
れの者***を残し、私たちのためにご自分の聖
なる所に**一本の杭***を与えてくださいました。
これは、私たちの神が私たちの目を明るくし、
奴隷の身の私たちを少しでも生き延びさせて
くださるためでした。

*捕囚を信仰をもって生きのびた者たち

*再建された第二神殿

捕囚からの帰還は、主の一方的な憐れみによる



告白 主による回復 エズラ9:9

事実、私たちは奴隷です。しかし私たちの神は、この奴隷の身の私たちを見捨てることなく、かえって、ペルシアの王たちによって恵みを施し*、私たちを生かして、私たちの神の宮を建て直させ、その廃墟を元に戻し、ユダとエルサレムに石垣を下さいました。

*キュロス王の勅令によって解放され、
ダレイオス王の許可を得て神殿を再建。
アルタクセルクス王の下、エズラは帰還。



異邦人の王まで
用いた主の憐れみ

告白 主の命令 エズラ9:10~11

こうなった今、何と云えばよいのでしょうか。
私たちの神よ、**私たちはあなたの命令を捨てた***のです。

あなたは、あなたのしもべである預言者たちによって、こう命じておられました。

『あなたがたが入って行って所有しようとしている地は、異国の汚れで汚れた地、忌み嫌うべき行いによって隅々まで汚れで満ちてしまった地である。』

*イスラエルの最も重い罪が、偶像礼拝



雑婚が突きつける
罪の現実

告白 禁止命令の確認 エズラ9:12

『だから今、あなたがたの娘を彼らの息子に嫁がせてはならない。また、彼らの娘をあなたがたの息子の妻にしてはならない。永久に彼らの平安も幸せも求めてはならない。それは、あなたがたが強くなり、その地の良い物を食べ、これを永久にあなたがたの子孫の所有とするためである』と。

- 律法が第一に命じるのは偶像礼拝との決別。
→ 唯一の神への信仰が、永遠の祝福の土台

モーセの律法が
確認される

シナイ山



告白 憐れみの内に エズラ9:13

私たちの悪い行いと大きな罪過のゆえに、
様々なことが私たちの上に起こりましたが、
私たちの神、あなたは、私たちの咎に値す
るよりも軽い罰*を与え、逃れの者をこのよ
うに私たちに備えてくださいました。

- 神は、一方的な約束に基づく恵みのゆえ*、
イスラエルを生きのびさせ、
残れる者たちを帰還させてくださった。

アブラハム契約が支えるイスラエル



告白 神の怒り エズラ9:13~14

そのようなことの後で、私たちは再びあなたの命令を破って、忌み嫌うべき行いをするこれらの民と、姻戚関係に入ってよいのでしょうか。あなたは怒って、ついには私たちを絶ち滅ぼし、残りの者も、逃れの者もないようにされるのではないのでしょうか。

- 金の子牛事件から始まって、イスラエルは何度も背き、**神の怒り**にさらされてきた。



石板を叩き割るモーセ

告白 義なる神 エズラ9:15

イスラエルの神、【主】よ、あなたは正しい方です*。まことに、今日あるとおり、私たちは逃れの者として残されています。ご覧ください。私たちは罪過を負ってあなたの御前におります。このような状態で、だれもあなたの御前に立つことはできないにもかかわらず*。」

- エズラは、**神の憐れみと義**を正しく理解する。
神の裁きの**厳格さ***を認めた上で、
約束の神の**憐れみ***にすぎる。





II. 偶像礼拝者との決別

エズラ記10章

イスラエルの丘と木

進言 民の嘆き エズラ10:1

エズラが神の宮の前でひれ伏して、涙ながらに祈り告白しているとき、男や女や子どもの大衆がイスラエルのうちから彼のところに集まって来た。民は涙を流して激しく泣いた。



進言 残された望み エズラ10:2

そのとき、エラムの子孫の一人エヒエルの子
シェカンヤ*が、エズラに言った。「私たちは、
自分たちの神の信頼を裏切り、この地の民である
異国人の女を妻にしました。しかし、このことにつ
いてイスラエルには今なお望みがあります。

今、私たちは自分たちの**神と契約を結び**、主の
勧告と、私たちの神の命令を恐れかしこむ人々の
勧告にしたがって、これらの妻たちと、その子ども
たちをみな追い出しましょう。**律法にしたがっ
て**これを行いましょう。

*“ヤハウエと共に住む者”

イスラエルの望みは
主の約束に基づく恵み



進言 立ち上がるエズラ エズラ10:4~5

立ち上がってください。このことはあなたの肩にかかっています。私たちはあなたに協力します。勇気を出して、実行してください」

エズラは立ち上がり、祭司、レビ人、全イスラエルの長たちに、この提案を実行するよう誓わせた。すると彼らは誓った。



嘆き 嘆きの祈り エズラ10:6

エズラは神の宮の前を去って、エルヤシブの子ヨハナン*の部屋に行った。そこに行って、パンも食べず、水も飲まずにいた。捕囚から帰って来た人々の不信の罪を嘆き悲しんだのである。

*大祭司エルヤシブの孫(子 = 子孫)



通達 帰還民へ エズラ10:7~8

そして、通達がユダとエルサレムに出された。それは、捕囚から帰って来た者はみなエルサレムに集合するように、というものであり、

また、三日のうちに*来ない者はみな、指導者たちや長老たちの決定にしたがってその全財産を聖絶され、さらにその人は、捕囚から帰って来た人々の会衆から除名される、としていた。

*全土から歩いて三日の距離にあるのが、
神の都エルサレム。



招集 招集された民 エズラ10:9

ユダとベニヤミンの男はみな、三日のうちにエルサレムに集まって来た。それは**第九の月***の二十日であった。こうして、すべての民は神の宮の前の広場に座り、この件で、また大雨のために震えていた。

*11～12月。雨期のただ中。

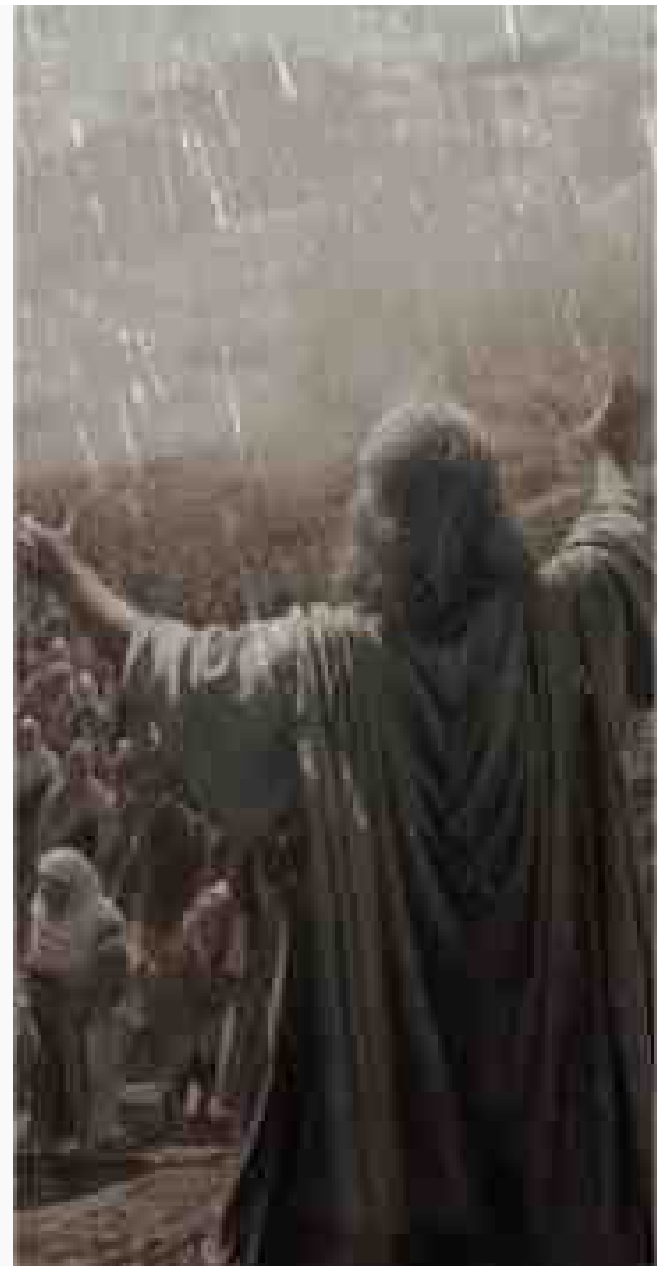


招集 祭司の命令 エズラ10:10~11

祭司エズラは立ち上がって*、彼らに言った。
「あなたがたは神の信頼を裏切った。異国人の女を妻にし、イスラエルの罪過を増し加えた。
だから今、あなたがたの父祖の神、【主】に告白して、そのみむねにかなったことをしなさい。
この地の民、異国人の女たちから離れなさい」

*主に仕える祭司として民にきよめを求めた。

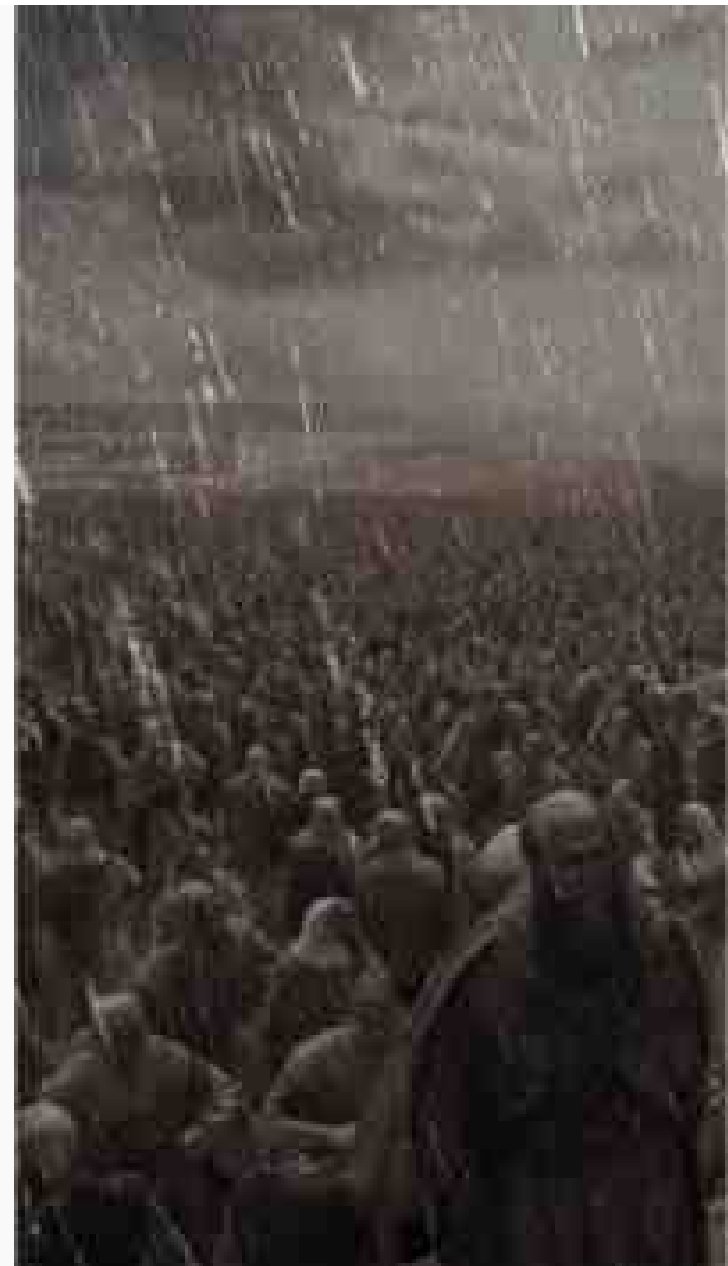
■イスラエルに求められているのは、
主の御前に身を置く約束の民にふさわしく、
律法に従い、身をきよめること。



招集 会衆の応答 エズラ10:12~13

全会衆は大声をあげて答えた。

「必ずあなたの言われたとおりにします。
しかし、民は大勢いて、大雨の時期ですから、
私たちは外に立っていることができません。
しかも、これは一日や二日の仕事でもありません。
私たちはこのことで大いに背いてきた
のですから。」



提言 会衆の提言 エズラ10:14

「全会衆を代表して私たちの指導者たちに、
ここにとどまっていたいただきたい。
そして、私たちの町で異国人の女を妻にした
者はみな、定められた時に、それぞれの町の
長老たち、さばき人たちと一緒に出頭するよ
うにしていたいただきたい。そうすれば、このこ
とについての私たちの神の燃える怒りは、私
たちから去るでしょう。」



提言 提案を受けて エズラ10:15~16

アサエルの子ヨナタンとティクワの子ヤフゼヤだけはこれに反対し*、メシュラムとレビ人シャベタイの支持を得たが、捕囚から帰って来た人々は、その提案どおりにした。

- 反対の理由は不明。とにかく一部を除き、定められた期間に調査することに同意した。



調査 選別と調査 エズラ10:16~17

祭司エズラは、彼らの一族のそれぞれのために、かしらの者たちを、みな名指しで選り分けた。こうして、彼らはこの件を調べるために第十の月の一日に検討を始め、第一の月の一日までに*、異国人の女を妻にした男たちについて、みな調べ終えた。

*1月~4月上旬頃。雨期の後半の期間。



調査書

エズラ記10:18～19

祭司の子らのうちで異国人の女を妻にした者が分かった。エホツァダクの子ヨシュアの息子たちと、その兄弟たちのうちのマアセヤ、エリエゼル、ヤリブ、ゲダルヤであった。

彼らはその妻を離縁すると誓い、自分たちの罪過のために、雄羊一匹を代償のささげ物として献げた。



調査書

エズラ記10:20～24

イメル族のうちでは、ハナニとゼバデヤ。

ハリム族のうちでは、マアセヤ、エリヤ、
シェマヤ、エヒエル、ウジヤ。

パシュフル族のうちでは、エルヨエナイ、マ
アセヤ、イシュマエル、ネタンエル、エホザ
バデ、エルアサ。

レビ人のうちでは、エホザバデ、シムイ、ケ
ラヤすなわちケリタ、ペタフヤ、ユダ、エリ
エゼル。歌い手のうちでは、エルヤシブ。

門衛のうちでは、シャルム、テレム、ウリ。



調査書

エズラ記10:25～28

一般のイスラエル人のうち、パルオシュ族のうちでは、ラムヤ、イジヤ、マルキヤ、ミヤミン、エルアザル、マルキヤ、ベナヤ。

エラム族のうちでは、マタンヤ、ゼカリヤ、エヒエル、アブディ、エレモテ、エリヤ。

ザト族のうちでは、エルヨエナイ、エルヤシブ、マタンヤ、エレモテ、ザバデ、アジザ。

ベバイ族のうちでは、ヨハナン、ハナンヤ、ザバイ、アテライ。



調査書

エズラ記10:29～33

バニ族のうちでは、メシュラム、マルク、アダヤ、ヤシュブ、シェアル、ラモテ。

パハテ・モアブ族のうちでは、アデナ、ケラル、ベナヤ、マアセヤ、マタンヤ、ベツアルエル、ビヌイ、マナセ。

ハリム族のうちでは、エリエゼル、イシヤ、マルキヤ、シエマヤ、シメオン、ベニヤミン、マルク、シエマルヤ。

ハシュム族のうちでは、マテナイ、マタタ、ザバデ、エリフェレテ、エレマイ、マナセ、シムイ。



調査書

エズラ記10:34～42

バニ族のうちでは、マアダイ、アムラム、ウエル、ベナヤ、ベデヤ、ケルフ、ワンヤ、メレモテ、エルヤシブ、マタンヤ、マテナイ、ヤアサイ。

バニ、ビヌイ、シムイ、シェレムヤ、ナタン、アダヤ、マクナデバイ、シャシャイ、シャライ、アザルエル、シェレムヤ、シェマルヤ、シャルム、アマルヤ、ヨセフ。



調査書

エズラ記10:43～44

ネボ族のうちでは、エイエル、マティテヤ、ザバデ、ゼビナ、ヤダイ、ヨエル、ベナヤ。

これらの者はみな、異国人の女を妻にした者であった。彼らの妻たちの中には、すでに子を産んだ者もいた。

■ 異教徒を妻にしていたイスラエルの内訳

- ・ 17人の祭司、
- ・ 10人のレビ人(歌い手1人、門衛3人)
- ・ 84人の一般のイスラエル人 計111人





Ⅲ. まとめと適用

聖化の道を生涯歩み続けよう

イスラエルの山地

律法時代と教会時代の違い

【律法時代の原則】

■ 偶像礼拝者との雑婚は厳禁

→ イスラエルに滅びをもたらすと律法が警告

【教会時代の原則】

① 不信者と、つり合わないくびきを共にしない(Ⅱコリ6:14～)

→ 信仰者同士の結婚が原則と言える

② すでに結婚し、結婚関係について相手が同意している限り、
離婚すべきでない(Ⅰコリ7:12～13)

昔も今も変わらない、聖化の道の方向性

■従うべき法が変わっても、目指すべきところは変わらない。
私たち信仰者が求められるのは、**きよめられていくこと。**

■**聖**とは、“神のものとして、他から区別されること”

自分自身を神の所有として、異なるものから引き離す課程が、**聖化**

■**栄化**のゴールに至るまで、私たちの**聖化**の過程は続いて行く。

自分自身で地上のゴールを勝手に定めないこと。

➔それはただの妥協。小さな妥協から主の道を逸脱していく

栄化のゴールに向かって前進し、変わり続けているのかどうか

★ 私たち信仰者に求められる決断の時 ★

■ 大切にしていた人、場所、物や習慣と、決別を求められる時がある。聖化の道を歩み進める過程で、避けがたいなら、受け入れる他ない。

例) Iさんの決断に寄り添って…

■ 私たちが選び取っていくべきは、永遠に残る価値のあるものだけ。それ以外はすべて、否応なく手放さざるを得ない時が来る。

■ 私たちの苦難や孤独が際立たせるのは、真実に愛し、信頼すべき方。愛するとは、愛する対象を第一とする、決断だ。

主を愛し、第一とする、この道を生涯、歩み続けよう!!

てん とう つみ
「天のお父さま。わたしの罪をゆるしてください

かみ こ
わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

① わたしの罪を贖うために十字架で死に、

はか ほうむ
② 墓に葬られ、

みっかめ ふっかつ しん
③ 三日目に復活したこと、を信じます。

わたし えいえん かみ しょゆう みたま しょういん お
私は、永遠に神の所有とされ、御霊による証印を押されました。

えいこう すがた か とき せいか みち あゆ つづ
栄光の姿に変えられるその時まで、聖化の道を歩み続けます。

えいえん のこ かし えら と
永遠に残る、価値あるものを選び取っていきます。

しゅ あい もの りんじん しゅ あい とど わ あ
主を愛する者として、隣人に主の愛を届け、分かち合っていきます。

しゅ な いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」